

主な製品の売上高の状況と見込み

製品名	2018年度 売上高(実績) (億円)	対前期 増減率	2019年度 売上高(見込み) (億円)	対前期 増減率
オプジーボ点滴静注	906	+0.5%	850	△6.2%
グラクティブ錠	269	△1.8%	265	△1.5%
オレンシア皮下注	174	+23.3%	190	+9.0%
フォシーガ錠	145	+31.0%	165	+13.8%
イメンド／プロイメンド	106	+6.6%	115	+8.4%
リバスタッチパッチ	89	+0.2%	95	+6.8%
オパルモン錠	104	△27.9%	90	△13.1%
パーサビブ静注透析用	57	+66.8%	70	+22.4%
カイトロリス点滴静注用	49	△11.1%	55	+11.8%
リカルボン錠	73	△32.8%	50	△31.9%
オノアクト点滴静注用	46	△18.5%	45	△1.8%
オノンカプセル	44	△20.0%	35	△19.9%
ステーブラ錠	37	△10.6%	35	△5.3%
オノドライシロップ	27	△19.1%	20	△25.9%

チロシン水酸化酵素阻害剤「デムサー®カプセル」新発売

2019年2月に、褐色細胞腫*のカテコールアミン分泌過剰状態の改善剤「デムサー®カプセル」を新発売しました。本剤は、カテコールアミンの分泌に関わるチロシン水酸化酵素を阻害することで、褐色細胞腫から過剰に分泌されるカテコールアミンを減少させ、カテコールアミン過剰分泌による高血圧、頻脈、頭痛、動悸、発汗、便秘などのさまざまな症状を軽減します。



なお、デムサーは、厚生労働省により設置された「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」において、開発企業の募集が行われ、当社が開発を進めてきたものであり、厚生労働省より、2015年5月に希少疾病用医薬品に指定されています。

*褐色細胞腫

副腎髄質または副腎外傍神経節に由来する神経内分泌腫瘍

BRAF阻害剤「ビラフトビ[®]カプセル」、MEK阻害剤「メクトビ[®]錠」新発売

2019年2月に、BRAF遺伝子変異を有する根治切除不能な悪性黒色腫の治療薬として、「ビラフトビ[®]カプセル」と「メクトビ[®]錠」を新発売しました。ビラフトビは、経口の低分子BRAF阻害剤で、メクトビは経口の低分子MEK阻害剤です。悪性黒色腫において、がん細胞の増殖に関与している経路の重要な酵素であるBRAFおよびMEK1/MEK2に対し、2剤を併用することでそれぞれの標的を選択的に阻害し、がん細胞の増殖を抑制します。

悪性黒色腫は、皮膚の色と関係が深いメラニン色素の産生能を持つ色素細胞が、がん化した悪性腫瘍で、皮膚がんの中でも転移率が高く、きわめて悪性度が高いとされています。両剤併用療法が、BRAF遺伝子変異を有する根治切除不能な悪性黒色腫患者さんの治療に貢献できるものと考えています。なお、ビラフトビとメクトビは、BRAF^{V600E}遺伝子変異陽性の転移性大腸がんを対象に、有効性および安全性を比較する国際共同第Ⅲ相臨床試験を実施しています。



「オノアクト[®]点滴静注用」、心室性不整脈に関する効能・効果追加の承認取得

2019年3月に、短時間作用型 β_1 選択的遮断剤「オノアクト[®]点滴静注用」が「生命に危険のある不整脈(心室細動、血行動態不安定な心室頻拍)で難治性かつ緊急を要する場合」の効能・効果で追加承認を取得しました。

心室性不整脈は、血液を全身へ送り出すポンプ機能を担う心室で発症する不整脈で、心臓突然死の原因となる致死性不整脈であるため、発症時には直ちに電氣的除細動などで不整脈を停止し、その後も再発を抑制することが必要です。

オノアクトは、主に心臓に多く存在する β_1 受容体を選択的に遮断することで交感神経緊張の緩和作用を有することから、緊急を要する致死性不整脈の治療に貢献できるものと期待されています。